

【追悼寄稿】二子石隆範さんを偲んで

周南公立大学非常勤講師 兼重宗和（徳山大学1期卒）

高田隆学長宛に、19期生の故二子石隆範さんのお母様から「…（長男隆範が）目標達成できましたのもひとえに徳山大学で学んだ4年間の礎があればこそと心から感謝しております…」との丁寧な書簡をいただきましたとのこと。

月日の流れは早いもので、二子石隆範さんのご逝去から早や20年が経過しました。私（兼重）は、平成5年に卒業された二子石さんと教職担当の教員として懇意にしていました。学生時代の二子石さんは実直で行動力があり、教育研究会のリーダー的存在であるとともにESSクラブにも所属し活躍していました。また、昼休みや講義終了後に、いつも私の研究室で仲間たちと教員採用試験の勉強をしていました。卒業後は教員になる目標の実現のためにひたすら頑張っていました。

卒業後、高校の正規教員に決まったとの連絡が入り、同窓の仲間が集まり下松市の笠戸ハイツで楽しい時を過ごしました。彼の赴任先は熊本県立御船高等学校でした。会食中、二子石さんが坊主になっているので「どうしたの？」と尋ねると「担当の部活が負けたので責任取って坊主にしました」と答えました。その直後、彼が病気の療養中であることを知りました。私や仲間へ配慮しそのように話したのです。暫くして彼の訃報が入りました。33歳（2003年）、あまりにも早すぎました。葬儀に参列した徳山大学の仲間から、赴任した高校の生徒に「志を持つことや人を思いやる大切さを教えてくれた先生」として非常に熱心な指導をされていたと聞きました。私やご両親より先に逝ってしまったのは、無念と言うしかありません。心より哀悼の意を表します。

二子石さんは、闘病しながらも全力で指導を続け、生徒にいつもにこやかだった表情から「ニコ先生」と呼ばれ慕われていました。そのことは、教え子が二子石さんを偲んで7回忌に『ニコニ子の木』を自費出版し、さらに2021年御船高等学校の100周年には二子石さんの似顔絵を描いた記念碑と記念樹を寄贈されていることから十分窺えます。また、このことは新聞にも大きく報道されました。

最後に故人の面影を偲びつつ、あらためて心よりご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記・お礼

4年ぶりの対面の評議員会が開催され人と人の繋がりの大切さを感じました。

大学も、今春よりいよいよ3学部5学科の体制となり、さらに新たなスタートが切られます。

本会では、組織の在り方も再考しながら大学の発展に寄与して参りたいと思います。

一編集スタッフ一

企画広報部長 藤井辰郎（25期）

事務局長 三嶋隆史（3期）

中村道陽（11期）

藤田美恵（事務局）

印刷デザイン 東洋印刷(有)

協力 周南公立大学



徳山大学校友会誌 とくだい

Volume.048

徳山大学 周南公立大学 徳周会誌

発行所 徳周会

〒745-8566 山口県周南市学園台 周南公立大学内 TEL&FAX 0834(28)7454

発行日：令和6年3月25日

発行責任者 國廣 憲

編集責任者 藤井 辰郎



周南公立大学として初めての、新校舎となるS1号館（5階建て・延床面積6,641㎡）は、1、2階は地域住民も利用可能な開放的なスペースとなっており、カフェや学生の自習環境を整備しています。正式な一般公開は3月20日以降となるため、外観をご紹介します。右下写真は、かつてあった野外ステージの一部がリニューアルされ、なごりを残しています。



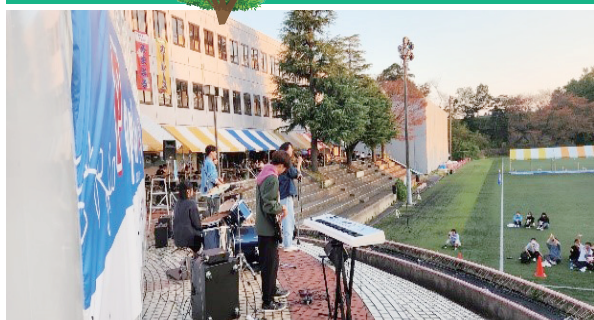
4年ぶりの評議員会開催される



令和5年7月8日、ホテルサンルート徳山に於いて4年ぶりとなる評議員会が開催されました。国廣会長より「大学も公立化となり大きく変わっている。本会も変わって行かなければならない」と挨拶があり、その後、「令和4年度事業報告及び決算報告」「令和5年度評議員・役員改選、活動方針及び事業計画、予算案」が審議され全会一致で承認されました。本会終了後、高田理事長・学長より大学の将来ビジョンについて講話を頂き、続く懇親会では大学教職員をゲストにお迎えし、和やかなひとときを過ごしました。



ポプラ祭盛大に開催される



令和5年11月4日ポプラ祭が「夢」創る届ける繋げるをテーマに開催されました。今回は4年ぶりに学生模擬店が復活し、企業出店、子供向け企画も行われ、一般市民の方も多数来場いただきました。大学の学びを知っていただく一環として「地域ゼミ」の成果物の掲示や事前予約でのDXセミナーも行われました。

芸能人で人気のやすこさんも登場し、様々な企画で、楽しく充実した大学祭となりました。



周南みらい基金通信

【第1号】
令和6年1月発行



周南公立大学
SHUNAN UNIVERSITY



この度、「周南みらい基金通信」を創刊いたしました。ご寄附者の皆さまをはじめとする多くの方々に、本学の基金事業の活動状況や旬な情報を定期的にお届けしたいと思っておりますので、ぜひ、ご覧ください！

●生活支援奨学金支給対象者（令和5年度から感謝の声が届いています）（基金の用途1: 学生の修学支援）

今年度の対象者は1年生2名となり、皆さまからのご寄付を原資に前期、後期と支給させていただいています。次年度以降は、入学定員が増え、対象者も増加することが見込まれます。また、令和6年度より国の授業料等無償化制度の拡充に伴い、本学でも合わせて対象者の拡大を検討します。

教職課程にかかる費用を気にすることなく自分の目指す将来に向けてやりたいことができる安心感があり、不安なく挑戦することができるのでとても助かっています。これから将来を考えた時、やりたいことをお金の負担が少ない状態でできること、家族への負担が少ないことにとても感謝しています。

（経済学部1年生）



学費への利用の他に、私は実家から大学へ通っているため、電車とバスの定期券等の交通費にも利用させて頂いています。そのおかげで、家計への負担や心配が減り、毎日集中して勉学に励むことができています。生活支援奨学金のために寄付してくださった企業様、ありがとうございます。

（経済学部1年生）



●周南みらい基金」応援会を開催しました



学生の修学支援や教育研究の充実のために基金を盛り上げようと、有志による多くの地域企業様のご参加の下、7月に周南みらい基金応援会が遠石会館で行われました。会長には東ソー物流前社長の佐伯哲治様、副会長には西京銀行会長の平岡英雄様、赤坂印刷社長の赤坂徳靖様、徳山興産社長の管田英男様が就任されました。参加された皆様からは、地域の活性化のためにも応援会を拡大していこうとの力強いお言葉をいただきました。

応援会の設立にあたり

「学びたい」意欲は大変尊いものです。基金は志があっても修学困難な若者を地域が支え合うものです。彼らが夢を叶え、将来地域のリーダーとなって次の世代につなぐ、人材育成と地域発展の循環を期待しています。

周南みらい基金応援会会長 佐伯哲治

あとがき@基金事務局

本基金創設後、これまで個人様62件、企業様49件と、多くの皆様からご寄附をいただきました（R5.12月末現在）。改めまして教職員一同、心より感謝申し上げます。今年度の基金事業は、上記奨学金事業の他、海外大学との提携や教育機関との連携等を進めています。4月からの新学部学科開設にあたり、地域の活性化につながる基金事業のさらなる充実を図ってまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

基金概要やご寄附についてはこちらから↓

